

## 情報通知

**研究課題名**：大切な作業と向き合う機会が脳卒中急性期患者の精神心理面に与える影響

**研究の実施体制**：青木江里奈、木本茉佑、田邊芽衣、関根英哉(沼田脳神経外科循環器科病院)

**研究の目的**：脳卒中後うつ・意欲低下は脳卒中患者が経験することが多く、機能回復や日常生活活動を制限することが知られています。うつや意欲低下の原因の1つとして環境要因が考えられ、入院環境は楽しみや主体的な生活を制限します。特に急性期においては医療従事者主導の治療が行われ、入院患者は自分自身の大切とする作業と向き合う余裕や機会が少ない傾向があります。本研究は急性期脳卒中患者の大切とする作業と向き合う機会をすることでうつ症状や、意欲低下などの精神心理面に影響を与えるかどうかを調査することを目的としています。

**研究の対象**：2021年8月1日から2022年4月30日の間に沼田脳神経外科循環器科病院で入院リハビリテーションを受けた患者様が対象となります。診療録データベースの情報を見返して、情報を集めさせていただきます。対象となることを希望されない方は、最下部の連絡先までご相談ください。

**収集する情報**：対象者の年齢、性別、診断名、家族構成、在院日数、入院1週間以内(初期)と退院前1週間以内(最終)の日常生活活動動作の指標であるFIM(歩行・認知合計点・総合点)、MMSE(Mini Mental State Examination)、自己評価式抑うつ性尺度(Self-rating Depression Scale ; SDS)の得点、やる気スコア(Apathy Scale 邦語版)の得点、ADOC(Aid for Decision-making in Occupation Choice)を使用させていただきます。

### 情報の保管および破棄、情報公開の方法：

データを解析する段階では、個人を特定できる情報は含まれません。検査結果はExcelへの出力およびID番号を用いて対応表にて管理します。パソコン・ファイルは施錠可能な室内にて保管します。研究終了後(令和4年度末)のデータの取り扱いとして、デジタルデータはいかなるソフトウェアでも復元できないようPC上で完全に削除します。得られた結果については論文あるいは学会で発表することがあります。

**見込まれる医学上の貢献**：大切な作業と向き合う機会が脳卒中急性期患者の精神心理面に与える影響を調査することで、作業療法のアプローチ内容の改善に繋がる。

**研究に関する問い合わせ先：** 群馬県沼田市栄町 8 番地, 0278-22-5052 (内線 1141)

沼田脳神経外科循環器科病院 リハビリテーション部門 作業療法課

担当者：青木 江里奈(責任者)